

2022 年 9 月 25 午前 10 時 30 分

聖霊降臨節第 17 主日 主日礼拝

司会 手塚富台
奏楽 木戸恵美子

讃美歌は着席のまま、マスク着用して歌います。
最後の頌栄のみ、差し支えない方は起立して下さい。

(平和のあいさつ)

前奏

招きのことば ローマの信徒への手紙 12:1

讃美歌 3(1, 4, 5) 「扉を開きて」 一同

詩編交読 112:1-10 (P.129/125)

祈り

司会者

「関東教区お祈りカレンダー」
益子教会 小山教会 水戸教会
(主の祈り)

讃美歌 129 「わたしの望みよ」 一同

聖書 旧約 申命記 15:7-11 (P.304)

新約 II コリント 9:6-12 (P.335)

メッセージ 『そこに喜びがあるか?』

祈り 川上 盾 牧師

讃美歌 566 「戦いを望まで」 一同

献金 一同

(献金感謝の祈り)

頌栄 26 「グロリア・グロリア・グロリア」

祝祷 川上 盾 牧師

後奏

報告・紹介

「9 月招きのことば」 ローマ 12:1

自分のからだを、神に喜ばれる聖なる生けにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。

「9 月礼拝当番」 岡安茂能 服部直子

今村玲子 鎌田正之 川上ゆり子

深町奈穂子 斉田アントニーナ

「今週の集会・行事」

◎ 本日礼拝後 礼拝司会者講習会 週報発送

◎ 本日 13:00 CS 午後礼拝

◎ 26 日(月) 群馬地区教師会 (高崎南教会)

◎ 27 日(火) 牧師、赤城育心こども園

◎ 30 日(金) 牧師、共愛学園評議員会

◎ 10/1(土) 10:00 会堂清掃 B 組

「次週の主日」

◎ 主日礼拝 10:30 世界聖餐日(聖餐式執行)

メッセージ 『血はいのちのしるし』 川上牧師

聖書: 旧約 出エジプト 12:21-27 (P.112)

新約 ヘブライ 9:23-28 (P.412)

讃美歌: 6, 134(1, 3, 5), 436(1, 2, 4), 376(2, 3), 27

交読詩編 96:1-9 (P.110/106)

司会: 岩淵デボラ 奏楽: 川名ひさ子

◎ 10 月定例役員会 礼拝後

「予告」

◎ レインボーコンサート 10/15(日) 13:30

ゲスト: 平良愛香 牧師 (神奈川・川所教会)

Pig on the tree (アイリッシュ)

(オープニング・アクト) 前橋教会 CS こどもたち

◎ 交流ミニ・バザー 10/30(日) 礼拝後

「報告」

◎ 礼拝式順、次週から「信仰告白」を再開します

以前していたように、礼拝の最後に「共に信仰を告白し、新たな週に向かって歩み出す」という主旨で行います。月ごとにいろいろな信仰告白を唱和する予定です。10 月は使徒信条です。

◎ レインボー・コンサート(10/15)

先週「これもさんびか」の集まりで、平良愛香さんにお会いしました。「前橋教会の皆さんとお会いするのを楽しみにしています!」とのことでした。Pig on the tree は徳島恵子さんの妹さん(バイオリン)が属するアイリッシュ・バンドです。定員 80 名。希望者はお早め!

◎ 交流ミニ・バザー(第 2 回 10/30)を行います

岩淵デボラさんのプロデュースにより行われます。献品等の扱いは前回と同様です(個々に値段をつけて持ち寄り。残ったら提供者が引き取る)。どうぞご協力下さい。

◎ 恵老礼拝・交流会(先週開催)

今年も愛餐会は見送ることとなりましたが、礼拝後、今年 75 歳を迎えられる方々(手塚富台、長嶋美智子、ペニントン有子)の紹介を中心に、楽しいひと時を過ごすことができました。特にペニントン有子さんが手術後 5 ヶ月ぶりにお見えになれたのがうれしいことでした。

「消息」

◎ 安中教会… 本日、朝日研一朗牧師の就任式が行われます。新たな歩みに祝福を祈ります。

「先週の集会」

	礼拝堂	オンライン	献金
主日礼拝	56	29	84,491

《メッセージ》『生涯の時を数える』川上牧師

詩編 90:1-12 (9 月 18 日 恵老祝賀)

▼日本は世界でも有数の「超高齢化社会」。しかしそれは言い換えれば世界有数の「長寿の国」でもあるということだ。歳を重ねて高齢者となって、「そこから以降の歩み」を数える、トップランナーなのだ。▼詩編 90 編は、ひとりの人間の生涯を比べてはるかに長く大いなる「神の時」への洞察が示される。天地創造の以前から、すべてのものの源である神がおられ、その神によって世界は成り立っている。「私がいって神がいる」ではなく、「神がいって私がある」... この順序こそ、信仰の原点だ。▼そして人間にとって長く感じられる時(千年!)も、神にとっては一瞬の出来事、人の一生は草花のようにおされてゆく... 「大いなるものの中でちっぽけな自分」という感覚、これもまた宗教的感性と言える。▼詩編 90 編を読んでみると、何とも言えぬ無常観に包まれ「しんみり」とはかないものを感じてしまう人もいるかも知れない。しかしそのおきなさを突き抜けて、どこか「ホッ」とする感覚を受けとめられるようにも思う。「私は死んでも神さまは生きておられる」そう信じれば、大船に乗ったような妙な安心感も生まれるのではないかと。▼中ほどには人間の罪が語られる部分もある。この詩はモーセの作という珍しいもの。神の救いの働きと、民の過ちの現実の間で苦悩したモーセだからこそ、そのような言葉が紡がれたのか。しかしモーセは拭いようのない絶望感を示すためにこの詩を記したのではない。「あなたの民らを力づけ、生涯喜び祝わせて下さい」と記すのである。▼どうすれば、この空しいだけに見える人生を、喜び祝うもののできるのだろうか。ちょうど真ん中あたりに大切なポイントとなる言葉が記される。「生涯の日を正しく数えるように教えて下さい。知恵ある言葉を得ることができまますように」。自分中心の心算を離れて、神が示される知恵ある心を求め、その知恵によって生涯の日を正しく数えること...それが希求である。▼知恵ある心で生涯の日を数える... 具体的に何をすればいいのか? すでにこの詩の中に道筋が示されている。一つは「自分まっしぐらである」という自覚を持つこと。どんな地位や名誉や財産や権力を持っていても、所詮一人の間人である。大きな宇宙の中ではちりの一粒過ぎない。▼もう一つは、そのちっぽけな自分に、全宇宙を集約した神の恵みが注がれていると信じること。いまこの時のいのちは、あたりまえのものでなく、ありえない(ありがたい)ほどかまがえのないものとして、生かされている... そのように受けとめることだ。「私に小さいけど大きい」それが「生涯の日を正しく数えること」ではないかと。▼歌人の穂村弘さんが、投稿者の中に「91 歳 2 ヶ月」と月齢まで記してくる人の例を挙げ、「私たちも赤子の真まそのような形で命を見守られてきた。そして人生の終盤、再び自分の月ごとの命を見つめるのだ」と記しておられた。そのような命の見つめ方に祝福があると思う。そしてそれが、「生涯の日を正しく数える」ということなのだろう。